

解決し難い症状と原因と対応法

1、特定の歯の違和感

原因は、多数考えられる。その中でも発見できづらいものをピックアップすると、

- ① 歯に加わる咬合力が過剰になっている場合。
- ② 歯に肉眼では認識することができない亀裂が入っている場合。
- ③ 肉眼では確認することが困難な微細な歯石が付着している場合。
- ④ 根管内根尖部に異物が残留している場合。

①は夜間ブラキシズム時の力が過剰になっている場合があります。

だからといってスプリントではなく、咬合を変えていくと解決の糸口が見えてきます。

②はマイクロスコープでよく観察すると見えてきます。

しかし、亀裂が発生してくるのはやはり過剰なブラキシズムの存在が考えられます。

③は、肉眼で見える範囲の歯石は、大変に限られています。

ましてや手指感覚で全ての歯石が取れることはありません。

④は、根管内から見た根尖周囲組織は、教科書に載っているような単純な形態ではありません。

そこに残留している異物も、かなりシツコクへばりついているので、

チャンネルメーターだけで根尖を確認できたとするのは早計です。

2、全部の歯が全てきれいに揃っているのに咬めない。

原因は、多数考えられる。

その中で、最も犯しやすいミスは、精神的要因に原因を求めることである。

一人の患者様の咬合を診査診断していくうえで、何を診ればよいのであろうか？

咬合は頭蓋下顎系のシステムである故に、脳頭蓋底を基準とした上顎歯列模型の咬合器へのマウントと下顎歯列模型の再現性のある基準ポイントでのマウントが、咬合を診査診断するうえで最低限必要である。そして、それらの歯列を包含している骨格の診査のためX-Ray 側方セファログラムの分析が必要である。

その中でも必ず評価すべき項目は咬合平面である。咬合平面は下顎位を決定する最重要因子である。その咬合平面と咬頭傾斜と顎路等がバランスを精密に評価するなかで咬めない原因が抽出される場合が多い。

従って歯があるかないかではなく、バランスが取れているかどうかが重要である。